

色麻町林道施設長寿命化計画  
(個別施設計画)

計画期間

自 令和 2年4月 1日

至 令和12年3月31日

令和2年3月

色麻町産業振興課

## 1 基本的事項

本町が管理する林道橋梁は、2施設であり、昭和43年及び昭和47年に建設されている。

財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和43年3月31日大蔵省令第15号）」によると橋梁の耐用年数は60年であり、建設年度が最も古い「桑畑1号橋」の供用年数が51年であることから、耐用年数を経過する林道施設は2028年度から出現することとなる。現段階から林道施設の現状を個別に把握するとともに、現状を踏まえた施設毎の維持管理・更新等を実施する持続可能なメンテナンスサイクルを構築することによって、林道施設維持管理費用の縮減及び平準化を図ることが重要である。

これらを踏まえ、本計画では、予防保全型維持管理の考え方を導入し、持続可能なメンテナンスサイクル構築に向けた取組を進めるために策定するものである。

## 2 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

## 3 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

## 4 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

## 5 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された施設毎の状態については別紙のとおりである。

## 6 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

## 7 対策費用

個別施設毎の対策費用の概算については別紙のとおりである。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。



個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号	2	施設管理者	色麻町
路線名	桑畑線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	桑畑1号橋
施設の所在地	色麻町小栗山	起点からの距離	不明	建設年度	1968(S43)
供用年数	51	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.08m(m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	不明
		支承形式	不明	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	不明		基礎形式	—	
橋脚工型式	不明		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	当該林道の利用区域(約529ha)内には、整備すべき森林があることから、利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年10月3日				
	調査結果	袖擁壁の上部損傷が原因で土砂流出があり、路肩の陥没が進行している。第三者被害の可能性が高いことから、早急な対策を講ずることが望ましい状況にある。また、袖擁壁と橋台のすきまからスギが成長して大きくなり、袖擁壁の傾斜の原因となっている。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	路面に陥没が見られ、第三者被害が想定されることから、早急な措置をとることが必要とされる状況。			
	劣化原因	長期に渡る凍結・融解の繰り返し作用による劣化。 雨水による砂利道からの土砂流出。 共用年数経過に伴う劣化。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	橋台背面アプローチ部に(L)0.90×(W)0.30×(H)0.70の陥没が確認されている。第三者被害も懸念されるので、直営工事で措置する。				
	実施予定時期	次回定期点検の令和5年までに実施する。				
	施設の優先度	中	生活道としての利用はなく、健全性Ⅲの診断結果から優先度を「中」とした。			
対策費用(概算)	定期点検 120万円					
管理方法	長寿命化対策として、補修を計画的に実施し、5年に1回の定期点検を行う。橋面や排水施設の清掃等維持管理作業を実施する。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.6					0.6	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号	2	施設管理者	色麻町
路線名	桑畑線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	桑畑2号橋
施設の所在地	色麻町小栗山	起点からの距離	不明	建設年度	1972(S47)
供用年数	47	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.00m(m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	不明
		支承形式	不明	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	不明		基礎形式	—	
橋脚工型式	不明		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	当該林道の利用区域(約529ha)内には、整備すべき森林があることから、利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年10月3日				
	調査結果	路面は全体的に土砂で覆われており、道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から処置を講ずることが望ましい状況にある。 路面上の土砂は早急に撤去することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	継続的な観察が必要とされる状況。			
	劣化原因	長期に渡る凍結・融解の繰り返し作用による劣化。 雨水による砂利道からの土砂流出。 共用年数経過に伴う劣化。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	現状の損傷について、経過観察を実施する。				
	実施予定時期	次回定期点検の令和5年までに実施する。				
	施設の優先度	低	生活道としての利用はなく、健全性Ⅱの診断結果から優先度を「低」とした。			
対策費用(概算)	定期点検 120万円					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 橋面や排水施設の清掃等維持管理作業を実施する。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.6					0.6	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考